様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

# 科学研究費助成事業　　研究成果報告書

平成 ２９ 年　 ６ 月 １８ 日現在

機関番号：７２６１３
研究種目：基盤研究(C)（一般）
研究期間：2014～2016
課題番号：２６３７０８１０

研究課題名（和文）戦中・戦後の「報道写真」と撮影者の歴史学的研究－東方社カメラマンの軌跡－

研究課題名（英文）Documentary Photography during and after Asia-Pacific War-Tracks of the Photograpers in Tohosha-

研究代表者
井上　祐子（INOUE, Yuko）

公益財団法人政治経済研究所・その他部局等・主任研究員

研究者番号：８０６２７７５３

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　3,000,000円

研究成果の概要（和文）：本共同研究では、アジア・太平洋戦争期に写真宣伝物を制作していた東方社のカメラマンたちが、戦後、個人で保管していた写真ネガや関連資料の発掘・調査を行い、これまで大半が未公表だった国内外における戦時動員や空襲被害の実相、戦中・戦後の人々の暮らしなどを記録した貴重な写真約13000点について、概要リストを作成するとともに解題および関連論文を収録した報告書を2冊発行した。これらにより、東方社の写真ネガを歴史研究の資料として整備することができた。
また、『東京空襲写真集』（勉誠出版、2015年）と『東京復興写真集1945～46』（勉誠出版、2016年）を編集し、これらの出版に合わせて写真展も行った。

研究成果の概要（英文）：We in this joint reserch gathered and examined negatives,photographs,and related materials kept by the photogrphers in Tohosha privately.Tohosha is a group that made propaganda papers and magazines during Asia-Pacific War.Most of these photographs were taken during the war and recorded actual conditions of life,mobilization,damage by air raids and so on in Japan and the area occupied by Japan.Some of them were taken after the war.These photographs are very useful,but almost all have not publicized until now.
We made summary list of these about 13000 negatives and published two report books including commentaries and papers on them.And we edited two photograph collections,"The collection of Tokyo raids photographs"(Bensei Publishing Inc.2015) and "Tokyo reconstruction photographes 1945~46" （Bensei Publishing Inc.2016）.We had photo exhibitions in connection with the publications of them.

研究分野：近現代視覚メディア史

キーワード：報道写真　記録写真　東方社　文化社　戦争写真　戦後写真

１．研究開始当初の背景

（１）公益財団法人政治経済研究所付属東京大空襲･戦災資料センターでは､2011 年に｢青山光衛氏旧蔵東方社・文化社関係写真コレクション｣（略称「東方社コレクション」）の寄贈を受け、共同研究「戦争末期の国策報道写真資料の歴史学的研究―国防写真隊と東方社を中心に―」（学術研究助成基金助成金基盤研究Ｃ､2011~13 年度､課題番号 23520853､研究代表者山辺昌彦）において、同コレクションの写真ネガ約 17500 点の概要リストと解題及び関連論文を収録した報告書 3 冊を刊行した。また並行して、同センター所蔵「太田恒氏旧蔵情報局関連写真」の再整理を行い、同コレクションの写真を撮影した日本写真公社国防写真隊についても、研究を進めた。この共同研究によって、アジア・太平洋戦争期の記録写真を歴史資料化する方法の雛型が確立されるとともに、東方社及び日本写真公社国防写真隊についても、その組織や活動の実態の一部が明らかになった。

（２）前記 2011~13 年度の共同研究の過程で、東方社のカメラマンが個人で所蔵するネガフィルムその他の資料類が存在することが判明し、一部の資料は収集したものの、前共同研究ではその整理・考察には至らなかった。アジア・太平洋戦争期及び敗戦直後の記録写真を歴史資料として充実させるとともに東方社の実態に迫るためには、それら収集済みの資料の整理・考察に加え、さらなる資料の調査・収集・整理の必要があった。

（３）アジア・太平洋戦争期に警視庁で空襲被害の記録写真の撮影にあたっていた石川光陽氏のご遺族から、石川氏の写真及び文書資料の提供が受けられることになり、東京空襲の被害写真については、東方社・日本写真公社国防写真隊・石川氏の立場の異なる三者の写真の相互補完・比較検討が可能になった。

２．研究の目的

（１）「青山光衛氏旧蔵東方社・文化社関係写真コレクション」に、東方社のカメラマンが個人で所蔵していた写真ネガを加えることで、アジア・太平洋戦争期及び敗戦直後の記録写真を豊富化し、より多くの写真を歴史資料として活用できるように整備する。

（２）東方社のカメラマンが個人で所蔵していた写真ネガ及びその他の資料を整理・考察することで、東方社及びその後継団体である文化社の実態の解明をはかる。そして、戦中・戦後のその他の写真家や写真宣伝物制作団体と比較しながら、東方社・文化社を歴史的に正しく位置づけ、その意義についても明らかにする。

（３）東京空襲については、東方社・日本写真公社国防写真隊・警視庁カメラマン石川光陽氏の三者の写真を相互に補完させながら、比較検討することで研究を深める。そして、東京空襲の実態を詳細・正確かつ多角的に伝え、空襲被害・戦争被害について語り継ぐ。

３．研究の方法

（１）東方社各社員の遺族・資料管理者を探し、面会を承諾してもらえた方から順次聞き取り・所蔵調査を行うとともに、提供された写真ネガ及びその他の資料をすべてデジタル化した。共同研究のメンバーでそれらのデジタルデータを共有し、写真及び資料の整理・解読を進めた。また東方社のカメラマンたちが東方社・文化社時代に撮影した写真を利用して戦後に開催した写真展や彼らが参加した平和運動に関する資料、あるいは東方社・文化社の写真を利用した雑誌記事や写真展図録などについても、メンバーそれぞれが収集したものをデジタル化して共有した。『決定版東京空襲写真集―アメリカ軍の無差別爆撃による被害記録―』（東京大空襲・戦災資料センター編、勉誠出版、2015 年）

及び『東京復興写真集 1945～46―文化社がみた焼跡からの再起―』（山辺昌彦・井上祐子編、勉誠出版、2016 年）の編集に際し、勉誠出版株式会社でデジタル化した資料も同社より提供を受け、研究資料とした。

（２）『東京空襲写真集』及び『東京復興写真集 1945～46』の編集が、共同研究の研究成果報告書の作成よりも先行したため、空襲被害と戦後の写真については、写真集の編集の過程で、写真の解読、ネガリストの作成、解題の執筆を行い、研究成果報告書にも反映させた。

（３）ネガリストの作成と各報告書の解題・関連論文の執筆に関しては、それぞれの担当者が関連資料・参考文献を収集して作成・執筆にあたった。そして各担当者が作成・執筆したものについて研究会で討議し、また電子メールを利用して連絡を取り合って、写真及び資料の解読の精度を高め、内容の充実に努めた。

４．研究成果

（１）研究成果報告書を 2 冊発行した。

①2015 年度研究成果報告書『空襲被害を撮影したカメラマンたち―東京空襲を中心に―』（井上祐子・山辺昌彦・小山亮・石橋星志・大堀宙、公益財団法人政治経済研究所付属東京大空襲・戦災資料センター、2017 年）は、前共同研究の 2011 年度研究成果報告書『アメリカ軍無差別爆撃の写真記録―東方社と国防写真隊―』（井上祐子・山辺昌彦・小山亮・石橋星志、公益財団法人政治経済研究所付属東京大空襲・戦災資料センター、2012 年）を改訂し、前掲『東京空襲写真集』のより詳しい解題を兼ねるものとして発行した。『アメリカ軍無差別爆撃の写真記録』発行以後に判明した新たな事実や補遺を加えるとともに、東方社のカメラマンであった菊池俊吉・林重男両氏の所蔵写真と石川光陽氏所蔵写真の解題、石川光陽氏所蔵文書資料に関する論文を収録した。同報告書では、東京空襲のより詳しい実態を明らかにするとともに、東方社・日本写真公社国防写真隊・石川光陽氏の三者の写真を比較検討することで、それぞれの特徴や意義についても考察した。また大堀宙「石川光陽資料にみる空襲記述の変遷」では、16 点の石川氏所蔵文書資料を読み解き、石川氏の写真を再評価するとともに戦争観など石川氏の思想的側面にも言及した。

②2016 年度研究成果報告書『戦中・戦後の記録写真Ⅱ―林重男・菊池俊吉・別所弥八郎所蔵ネガの整理と考察―』（井上祐子・山辺昌彦・大堀宙、公益財団法人政治経済研究所付属東京大空襲・戦災資料センター、2017 年）には、ご遺族より写真ネガ及びコンタクトプリントの提供を受けた林重男・菊池俊吉･別所弥八郎三氏の撮影･所蔵写真､各 9725 点、2341 点、869 点（内 281 点は林氏所蔵）に関する総論と 10 本の解題（林分 6 本、菊池分 2 本、別所分 2 本）、及び関連論文 1 本を掲載した。これらの写真のネガリストについては、『空襲被害を撮影したカメラマンたち』に解題を収録したものも含めて CD-ROM に収録し、本報告書の付録とした。本報告書では、林・菊池・別所三氏が撮影・所蔵していた写真を、戦中・戦後、国内・海外、軍事・非軍事に分けて解題を執筆し、東方社・文化社の業績に関する研究を深めた。さらに三氏それぞれの写真の特徴や戦後の業績にも言及し、戦争観など思想的側面に関する考察も行った。

（２）2 冊の写真集を刊行し、その出版記念を兼ねる写真展を行った。また 3 冊目の写真集の刊行が決定し（2018 年 6 月刊行予定）、その準備を進めている。

①前掲『東京空襲写真集』は、戦後 70 年に

あたる 2015 年 1 月に刊行した。前共同研究の研究成果報告書や写真展、及び『東京大空襲―未公開写真は語る―』（NHK スペシャル取材班／山辺昌彦編、新潮社、2012 年）において、「東方社コレクション」中の空襲被害写真の一部は公になっていたが、『東京空襲写真集』では、「東方社コレクション」、「太田恒氏旧蔵情報局関連写真」、菊池俊吉・林重男・石川光陽各氏所蔵写真の合計約 1700 点の中から、撮影ミスや重複などを除き、約 1400 点を収録した。石川氏の空襲被害写真は、既に何度か写真集として刊行されているが、現在は入手困難となっており、『東京空襲写真集』は、現在東京空襲の被害状況を記録した写真集として、最も充実した内容になっていると思われる。解説及び各章扉において、各日毎の空襲の内容について記述するとともに、写真リストや地図など関連資料も掲載し、読者が理解を深められるように努めた。

『東京空襲写真集』刊行に関連して、「戦後 70 年にふりかえる東京空襲」写真展（2015 年 2 月 25 日～4 月 12 日、於東京大空襲・戦災資料センター）と「東京大空襲写真展　東方社撮影」（2015 年 11 月 20 日～26 日、於ギャラリー・アートグラフ銀座）の 2 回の写真展を行った。前者においては、記念講演会も行った。これらの活動により、広く一般市民に東京空襲の被害の実態や戦争の残虐性・非人道性を伝えることができた。

②前掲『東京復興写真集 1945~46』は、『東京空襲写真集』の続編として、2016 年 7 月に刊行した。同写真集には、空襲被害から復興する東京の街と人々の姿をとらえた写真 840 点を収録した。これまでに知られている敗戦直後の日本の写真は、占領軍によるものが多く、資材の不足から日本人が撮影したものは少ない。戦後、東方社を継いだ文化社では、敗戦直後の東京の状況を多数撮影しており、占領軍とは異なる日本人の目線で敗戦直後の東京の様子をとらえた写真集として、同写真集は大きな意味があると考える。同写真集にも、解説や関連論文・関連資料を掲載し、読者の便宜をはかった。

また同写真集についても、刊行に関連して、「文化社が撮影した敗戦直後の東京」写真展（2016 年 7 月 27 日～9 月 4 日、於東京大空襲・戦災資料センター）を行い、開催期間中に記念講演会も行った。これらの活動は、甚大な空襲被害がもたらした生活の厳しさや苦労と、戦争の抑圧や空襲の恐怖から解放された明るい市民生活という戦後社会がもつ両面性を認識し、現在に続く戦後日本の歩みに関心をもってもらう有効な契機になったと思われる。

③『東方社 2 万枚のネガにみる戦争と社会』（仮題、勉誠出版、2018 年 6 月刊行予定）は、前共同研究及び本共同研究で整理した戦中の記録写真約 2 万枚の中から、重要な写真を選び出し、ダイジェスト的な写真集とする予定である。これによって、これまでに知られていない海外占領地の様子などを含め、戦時期の人々の暮らしや動員などの実態と東方社について、さらに広く知ってもらうことができると考える。

## ５．主な発表論文等
（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計１０件）

①<u>山辺昌彦</u>、日本空襲における民間人の被害について、季刊戦争責任研究、査読無、82 号、2014、pp.56‐63

②<u>山辺昌彦</u>、日本空襲をいま改めて考える―空襲の実相と空襲後の諸問題―、足元からみる民俗、査読無、（23）、2015、pp.100‐125

③<u>井上祐子</u>、写真に見る東京空襲の被害―東方社撮影の東京空襲被害写真について―、政経研究時報、査読無、18 巻 2 号、2015、pp.12－16

④井上祐子、史料としての写真―写真史料の広がりと史料化のための課題―、メディア史研究、査読有、39 号、2016、pp.43－62
⑤山辺昌彦、空襲記録としての写真、横浜市史資料室紀要、査読無、6 号、2016、pp.21－40
⑥井上祐子、文化社撮影写真の特質と意義―敗戦直後の写真とその利用をめぐって―、政経研究、査読有、106 号、2016、pp.49－64
⑦山辺昌彦、平和のための博物館と戦後 70 年、政経研究、査読有、107 号、2016、pp.149‐166
⑧山辺昌彦、文化社が撮った「戦後」の原風景、東京人、査読無、375 号、2016、pp.78‐81
⑨山辺昌彦、東京大空襲をめぐる研究と運動について、歴史評論、査読無、794 号、2016、pp.17－30
⑩井上祐子、東方社 2 万枚のネガにみる戦争と社会、政経研究、査読有、108 号、2017、pp.64-77

〔学会発表〕（計１１件）
①井上祐子、「東方社コレクション」に見る戦中・戦後の女性の動員と暮らし、女性史総合研究会、2014.7.19、ウィングス京都
②山辺昌彦、東京大空襲・戦災資料センターの空襲研究について、戦災・空襲記録づくり東海交流会、2014.12.14、ピースあいち
③井上祐子、メディア史における「東方社コレクション」の意義と利活用の可能性、日本マス・コミュニケーション学会、2015.6.13、同志社大学新町キャンパス
④井上祐子、写真に見る東京空襲の被害―東方社撮影の東京空襲被害写真について―、空襲・戦災を記録する会全国連絡会議、2015.8.22、東洋大学白山キャンパス
⑤井上祐子、史料としての写真―写真史料の広がりと史料化のための課題―、メディア史研究会、2015.9.5、立教大学池袋キャンパス
⑥山辺昌彦、写真で見る東京大空襲、すみだ地域学セミナー、2015.5.23、すみだリバーサイドホール
⑦山辺昌彦、空襲記録としての写真、横浜市史資料室シンポジウム、2015.8.29、横浜市中央図書館
⑧山辺昌彦、東京大空襲をめぐる研究と運動について、歴史科学協議会、2015.11.28、明治大学駿河台キャンパス
⑨山辺昌彦、東京空襲と品川の被害、品川歴史館講座、2016.3.26、品川歴史館
⑩井上祐子、文化社撮影写真の特質と意義、メディア史研究会、2016.4.23、日本大学三崎町キャンパス
⑪井上祐子、文化社撮影写真の概略と歴史的意義、20 世紀メディア研究所、2016.6.4、早稲田大学早稲田キャンパス

〔図書〕（計５件）
①東京大空襲・戦災資料センター、勉誠出版、決定版東京空襲写真集―アメリカ軍の無差別爆撃による被害記録―、2015、521
②井上祐子他、影書房、戦後知識人と民衆観、2014、373（pp.99‐141）
③山辺昌彦、井上祐子、勉誠出版、東京復興写真集 1945～46―文化社がみた焼跡からの再起―、2016、424
④井上祐子、山辺昌彦、小山亮、石橋星志、大堀宙、東京大空襲・戦災資料センター、空襲被害を撮影したカメラマンたち―東京空襲を中心に―、2017、93
⑤井上祐子、山辺昌彦、大堀宙、東京大空襲・戦災資料センター、戦中・戦後の記録写真Ⅱ―林重男・菊池俊吉・別所弥八郎所蔵ネガの整理と考察―、2017、96

〔産業財産権〕

○出願状況（計０件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：

番号：
出願年月日：
国内外の別：

○取得状況（計０件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕
ホームページ等

６．研究組織
(1)研究代表者
井上祐子　（INOUE　Yuko）
公益財団法人政治経済研究所・主任研究員
研究者番号：８０６２７７５３

(2)研究分担者
山辺昌彦　（YAMABE　Masahiko）
公益財団法人政治経済研究所・主任研究員
研究者番号：９０４３５５４５

(3)連携研究者
（　　）

研究者番号：

(4)研究協力者
小山亮（KOYAMA　Ryo）
公益財団法人政治経済研究所・研究員